

島根県内5市の小中学校での 校内発生眼外傷の現状

おさ だ けん じ しぶ や ゆう ぞう ふる せ めぐみ
長 田 健 二 渋谷 勇 三 古 瀬 萌
さ さ き よし ひこ し みず まさ き
佐々木 嘉彦 清水 正紀

キーワード：眼外傷，小中学校，休み時間，部活，災害共済給付

要 旨

島根県内5市の小中学校の災害共済給付を調査し，眼外傷の現状を報告した。発生した3,558件の外傷の内，眼外傷は214件，6%であった。男子が77%で多かった。月別では6月，9月が多く，8月が少なかった。学年別では小学2年，中学1年が多く，中学3年が少なかった。発生時間は，小学生は休み時間，中学生は部活中が多かった。原因は「遊んでいて」が22.5%と最も多かったが，「サッカー」「バスケット」といった部活や体育などスポーツによる傷害は38%と多かった。物や手などが当たったり強打した症例が91%で残りは9%が異物誤入であった。教師の目の離れた休み時間の過ごし方や中学生の球技の部活には，注意を再喚起する必要がある。

緒 言

眼科学校医として，日常の学校生活の中でどのような事故が発生しているかを知る事は，事故の予防や対策に重要と考える。日本スポーツ振興センターの統計情報¹⁾は重症化した後遺障害発生のみとめであり，日常的に起こっている事故を理解する事はできない。なお，このデータは10年分がまとめられ²⁾，眼外傷について奥沢らが報告している³⁾。また，日本学校保健会の保健室利用状況に

関する調査報告書⁴⁾によると，養護教諭の現状が報告されているが，眼科における具体的な報告はされていない。他にも，小児の眼外傷の報告は散見されるが⁵⁻⁸⁾，学校活動に関する報告はない。そこで，今回各学校で報告された災害共済給付について調査を試みた。幸い島根県医師会学校医部会，各市教育委員会の協力を得て，災害共済給付を調査する事が可能であった。その結果，島根県内5市の小中学校の眼外傷の現状について知る事ができたので報告する。

方 法

個人情報保護法に配慮しながら，各市教育委員